



— <宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃テーマ> —

 南無阿弥陀仏 人と生まれたことの意味をたずねていこう

岐阜高山教務所だより

やすだ なつ き 高 安田 菜津紀 講演会のご案内 (5/25)

アジア・太平洋戦争 終結から80年 共に生きるとは何か

— 難民の声、家族の歴史から考えた多様性 —

日時 2025年5月25日(日) 午後2時から

講師 安田 菜津紀 氏 (フォトジャーナリスト)

16歳のとき、「国境なき子どもたち」友情のレポートとしてカンボジアで貧困にさらされる子どもたちを取材。現在、東南アジア、中東、アフリカ、日本国内で難民や貧困、災害の取材を進める。TBS テレビ「サンデーモーニング」にコメンテーターとして出演中。

会場 高山別院御坊会館

参加費 500円(高校生以下は無料) 終了後、サイン会予定

※チケットは高山地区大谷派寺院及び別院事務所にて販売中。当日券もございます。

高山市岡本町のブックスアイオーではチケット・関連書籍を扱っています。

岐仏教公開講座のご案内 (5/20)

「生きるってどういうこと」を年間テーマとし、「眼(まなこ)をひらく 心(こころ)をひらく」をサブテーマとして、第237回を開催いたします。一人でも多くの有縁の同朋と共に、仏法聴聞の場に出遇っていただきますようご案内申し上げます。

日時 5月20日(火)午後2時から

講師 讓 西賢 氏

(臨床心理士・カウンセラー・
大垣教区慶円寺住職)

講題 「真宗とカウンセリングの接点
—人間の正機と心のすくい—」

会場 岐阜高山教務所

聴講料 年間聴講券(5,000円)

当日券(500円)

【先生からのメッセージ】

人間関係が疎遠になりつつあった社会にコロナ感染症が追い打ちをかけて、確かに従来の社会構造は大きく変容しました。一方無辺の生死海と称される人間の本性は、古今東西変化はありません。

40数年のカウンセリングを通して気づかせていただいた人間のすくいを、真宗の視点から楽しくお話したいと思います。是非ご参加ください。

敬 弔

ご生前のご遺徳を偲び、
謹んで哀悼の意を表します。

第9組 善明寺 衆徒
高橋 正美 様 2月23日命終

住職就任 (4月28日就任)

第5組 法圓寺 岩崎 孝道 様
第10組 浄満寺 笹谷 太一郎 様

今月のテレホン法話

テーマ

いのちの出会い「真実の声を」

Tel(058)265-0033

5月1日～末日

松本香奈子 氏 (第12組極善寺)

「法語カレンダー」および教化冊子 「真宗の生活」の価格変更について

このたび、法語カレンダー(真宗教団連合発行)および、教化冊子「真宗の生活」について、以下のとおり、価格改定いたしますことをお知らせいたします。購読者の皆様におかれましては、何卒ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

法語カレンダー

これまで 150 円(税込)

⇒ 2026 年版より 176 円(税込)

※2026 年版より、留め具を紙製に変更します

教化冊子「真宗の生活」

これまで 無償 ⇒ 2026 年版より 33 円(税込)

5月の主な行事

1日(木)[14時]法要教化部会 岐高

[18時]野球部練習 岐

2日(金)[14時]研修部会 岐

[14時]真宗同朋会・伝道部会合同会 高

7日(水)[14時]第3回聖教聖典学習会 岐高

8日(木)[14時]寺院活性化支援会議 岐

[14時]教区門徒会協議会 岐

12日(月)～13日(火)東海地区同推協交流研修会

13日(火)[19時]教研購読 岐

14日(水)[13時]東海連区坊守研修会

16日(金)[14時]児連会議 岐

19日(月)[14時]伝道部会 高

20日(火)[14時]仏教公開講座 岐

[18時]野球部練習 岐

21日(水)[14時半]慶讃三部会正副主査会 岐

25日(日)[14時]現代の問題講座 高

26日(月)[14時]寺院活性化支援員基礎講習

27日(火)～28日(水)教研一泊研修 岐

28日(水)[14時]是旃陀羅問題に取組む実行委員会

29日(木)[16時半]仏教公開講座スタッフ会議 岐

[19時]教化研究所 高

30日(金)[13時半]解放運動推進協議会常任委員会

ひだご坊について (お詫び)

『ひだご坊 407号』について、本来3月号に同封すべきところ、事務の不手際により、今回遅れて同封させていただきましたこととなりました。関係者はじめ、教区内の皆様方に多大なご迷惑をおかけし、大変申し訳ございませんでした。深くお詫び申し上げます。今後、このようなことの無きよう事務を徹底してまいりますので、何卒ご容赦いただきますようお願い申し上げます。

第3回聖典・聖教学習会について（ご案内）

講師 名和 達宣 氏(教学研究所所員)

テーマ 宗祖親鸞聖人と「観経」 —「是旃陀羅」問題をふまえて—

期 日 【第3回】 5月7日(水) 14時～17時

会 場 高山教務支所(メイン会場) 教務所 WEB 聴講有

※第1種教師陞補対象研修会です。

参加費 500円

持ち物 『真宗聖典』、念珠、テキスト『御同朋を生きる』『是旃陀羅問題について』

コラム「所員のつぶやき」

春光うららかな季節になりました。桜の花は風に乗って舞い、新しい緑が静かに広がり始めています。そんな季節に、私は今日もロードバイクにまたがっています。

乗り始めて6年。まだたった6年、けれど私にとっては大きな時間でした。運動不足に悩み、ジムに通うも続かず、自分の意思の弱さに嫌気が差した頃——たまたま手に取った自転車漫画『弱虫ペダル』。仲間やライバルたちがペダルを必死に回す姿に、心を動かされました。

「これなら続けられるかもしれない」

それは、知らず知らずのうちに、私の生活を少しずつ変えていく始まりでした。仕事や法務に追われ、自由な時間などない日々。それでも通勤に自転車を取り入れることで、私は小さな自由を手に入れました。朝の冷たい空気を切って走る道、夜の静けさの中を滑る帰り道。誰にも奪われない、自分だけの時間。いつしか、もっと遠くへ行きたくなり、休日には長良川、金華山、池田山、琵琶湖、、走るたびに、心の奥に溜まった淀みが少しずつ流れ出していくのを感じていました。

——とはいえ、そうそう良いことばかりではありません。ロードバイクの世界には、果てしない物欲の荒野が広がっています。軽いホイール、しなやかなタイヤ、空力に優れたフレーム。どれもこれも、確かに走りを変えてくれる。しかし、それはほんの一瞬の魔法にすぎません。「これさえあれば」と手に入れてみても、すぐに次が欲しくなる。本当の満足は得られず、どれだけ車輪を回しても、この煩悩の連鎖からは逃れられない。気づけば、減るのは体脂肪ではなく財布の中身。増えるのはスピードではなく、次に狙うパーツのリスト。ロードバイクのおかげで、風を切る自由と、果てなき欲望を抱える私自身を教えてもらいました。

しかし、こんなにも煩悩まみれで、情けなく、未熟なままの自分を、ロードバイクは、ただ黙って受け入れてくれる。ペダルを回すたび、「それでも前に進め」と、背中を押してくれていたのです。だから今日も私は、また自転車に乗ります。うまくいかない日も、疲れた日も、迷いを抱えたまま、煩悩にゆられたまま、それでも、前へ行けと。

教務所 窪田昌展



教区解放推進協議会主催「ウトロ平和祈念館・渉成園現地学習会」レポート

4月11日、ウトロ平和祈念館の常設展示室において、映像を中心にウトロ地区の歴史・人々の生活についての講義を受けました。ウトロ地区は、戦争・植民地支配・在日コリアンの人権など複雑な歴史を背負った地域であり、在日コリアンの人たちが未来に生きる「希望」をつかみ取る魂の強さに圧倒されました。

午後からは、渉成園において松金直美氏(大谷大学講師)による「東本願寺周辺の被差別部落」について講義を受け、フィールドワークを行いました。渉成園は1641年徳川家光から寄進された地域で、都市開発によって遊郭や被差別部落が移転され、御土居^{おどい}(豊臣秀吉が防御のために築造した盛り土と堀)と高瀬川が付け替えられました。被差別部落の人々は東本願寺やその周辺などの大変危険な消防の任務を負わされました。今回の現地学習会において「もっと目を見開いて世の中を見ろ」と胸を掴まれ揺さぶられたように感じました。

(第9組 慶正寺住職 浅野淑子)



ウトロ祈念館・再現された飯場



渉成園臨池亭で講義



渉成園・御土居跡を見る

「日本社会から置き去りにされた朝鮮人のまちウトロ」。ウトロ平和祈念館は宇治市ウトロ地区に2022年開館。日本による朝鮮併合で来日し飛行場建設に従事した朝鮮の人々が住んできた町。午前は今もその二世、三世の方々と共に人権だけでなく世界平和も考える拠点「平和祈念館」へ。午後は京都市で東本願寺周辺地域の被差別部落現地学習会の機会を頂きました。

私は、人権尊重は真宗の教えの大切な要素の一つと思っています。ただ、実際に自分はどんな時と場においてもその考えや行動ができているかという自信がもてません。午前中ウトロ平和祈念館では副館長さんから、併合、来日、終戦後の無策等から来るウトロの人たちの厳しい生活実態を聞きました。しかし彼らが「反省と落ち込みだけではなにも変わらない」と前向きに考え、笑顔で行動されている姿にふれ、逆に私たちが力をもらったという思いです。

午後は渉成園で、まず本願寺や渉成園に近い六条村の歴史や今日の姿の説明を受け、その後現地へ。過去の本願寺の火災の際に公役とはいえ六条村を始め五ヶ村の人々が火消しに活躍されたことなどから、村と真宗は深いつながりがあったことを学びました。決して忘れてはならないことです。

今回の学習を通して、今後も自分の人権感覚を繰り返し見つめ、皆平等に「往生安楽国」を願う心を深めたいと強く感じました。ありがとうございました。

(高山2組 秋聲寺門徒 砂田明伸)